

令和元年度「星空の街・あおぞらの街」全国協議会表彰について

環境大臣賞

- ・団体賞：株式会社ツーリズムてしかが（北海道弟子屈町^{てしかがちよう}）

平成 21 年の設立当初から、着地型旅行商品として「摩周湖星紀行」を実施している。摩周湖星紀行には平成 28 年～平成 30 年の 3 年間で約 1 万人が参加。世界有数の透明度を誇る摩周湖での満天の星空を通し、自然環境の保全と活用を図るエコツーリズムを推進したまちづくりについて、国内だけでなく、訪日外国人観光客を通じ世界にも発信している。

次世代を担う子どもたちを対象としたエコツアーの実施や星空を通じた環境教育、人材育成活動にも積極的に取組み、地元と共に活動する旅行業者として地域の人材育成、観光振興に貢献している。

- ・個人賞：阿部^{あべ} 俊夫^{としお}（岩手県洋野町^{ひろのちよう}）

教員時代はもとより、退職後も継続して学校や各地域で星空観察活動を行っている。久慈地区各市町村で星空教室を開催するとともに、星が見える環境の大切さを伝えている。

「おおの星をみる会」を結成後、洋野町天体観測施設「ひろのまきば天文台」での開催を含め 300 回以上の星空観察会を行い、解説のわかりやすさで好評を得るとともに、天文教育の普及に尽力している。

近隣の小・中学校の理科の時間として天文台で天文教室を行い、星空や宇宙への興味・関心を高め、宇宙飛行士などの将来の夢づくりに貢献している。

星空観察を通して、空の暗さと大気環境の確保の大切さを伝えている。

全国協議会会長賞

・団体賞：大牟田市立多目的活動施設 リフレスおおむた（福岡県）

活動当初から、光害の啓発を目的として、星空観察会を実施している。大牟田市環境保全課の協力のもと、星空観察の前に光害啓発のための座学を行ったり、空気中のほこりと人工光が光害の原因であることを説明する模擬実験を行うことで、子どもを中心とした幅広い年代の参加者に対して、光害への理解が深まるように努めている。

星空観察の出張観察会を実施し、若手ボランティアの育成にも力を入れている。環境省が呼びかける「平成 30 年度冬の星空観察デジタルカメラによる星空の明るさ調査」に参加している。

・個人賞：田中^{たなか} 文夫^{ふみお}（北海道壮^{そうへつちよう}警町）

20 年以上「壮警町天文同好会」の会長として、壮警町の天体観測施設「森と木の里センター」で星空の継続観察を行うとともに、ボランティアで当該施設訪問者への星空ガイドを行っている。この施設は、アニメ「天空のメソッド」の舞台になっており、国内外から多くの人々が訪れているが、壮警町の空と田中氏の深い知識とユーモアあふれる天体解説で、多くのリピーターを生んでいる。

壮警町教育委員会が開催する「夜空を見る集い」では講師を務め、子どもから大人までを対象に、壮警町の星空の解説を行っている。

自らが考案した星座認定試験を全国に広め、受験者も年々増加している。